

地球科学輻合ゼミナール

(2009年度 前期 第7回)のご案内

「古気候モデリング：モンスーンとENSO」

鬼頭 昭雄 先生

気象庁 気象研究所 気候研究部長

古気候相互比較実験第2期(PMIP2)で行われている大気海洋結合モデル及び大気海洋植生結合モデルによる6,000年前の完新世中期及び21,000年前の最終氷期最盛期のシミュレーション結果から、気温・降水量(モンスーン)の変化およびエルニーニョ南方振動現象の変化についてのレビューを行う。また気象研究所のモデルによる実験結果の一部についても紹介する。これらの研究は地球温暖化予測とは表裏一体の関係にあり、将来気候予測との関連を意識して議論したい。

6月17日(水) 午後4:30～午後6:00

場所：理学研究科6号館 201号室